

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0473100212
法人名	有限会社 タックス
事業所名	グループホーム 花水月
所在地 (電話番号)	宮城県遠田郡美里町叔廼前22-3 (電話) 0229-33-1201
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19 年 10 月 23 日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	新築/○改築
建物構造	木造	造り
	2 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1,000円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	60 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野崎病院 野崎内科胃腸科病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者が6月に交代したばかりで業務に追われがちにもかかわらず、職員と協力して入居者本位の支援が出来るよう日々努力している様子が伝わり、入居者の表情も明るく家族からも信頼されている。鳴瀬川沿いの閑静な環境にあるこのグループホーム「花水月」は、以前は宅老所として利用されていた建物をリフォームして、平成12年6月1日に開設された。ハード面では改善していただきたい項目がいくつかあるが、改善できることからの実行をお願いしたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目②	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との関わりに関してはこれからの課題である。家庭的な雰囲気作りの工夫や、網戸を取り付ける点は改善されている。廊下にソファが配置され居室に戻る前に一休みできるスペースとなっている。
重点項目③	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員全員で話し合い、自己評価票を作成した。項目が多く大変であったが、自己評価の一つひとつの項目の内容を確認でき、意義について理解できたのは良かった。文書にしてみるといまままで気づかなかったことも確認できた。
重点項目④	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	これまで一度も開催されておらず、基準省令にもあるように地域密着型サービス事業所として、本人、家族、外部のメンバーの協力を得て早期に開催し、サービスの質の向上に繋げられるように期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情受付箱が置かれ、国保連のポスターが掲示されている。これまで苦情はなかった。家族アンケートからも日々の支援に感謝の気持ちが述べられている。更に本人、家族の希望や意見を汲み取るためにも、今後も気軽に相談や意見を傾聴できるように働きかけていきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には入っていないが、収穫祭には田んぼにテントを張り地域の人たちと収穫を喜び合ったり、グランドゴルフ大会に参加して楽しんでいる。お祭りの際は子どもみこしが立ち寄るので、入居者は楽しみにしている。今後、町との連携を深め、近隣の人々が気軽に立ち寄れる「地域のホーム」になるよう期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)
 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念はあるが開設以来見直しされておらず、地域密着型施設である理念の意義を考えていただきたい。地域の福祉資源でもあるという認識を持ち施設のあり方を考慮していただきたい。	○	入居者が地域でこれまでと同じように安心して暮らすことが出来るよう、家族や地域の人々と支えあい地域の中のホームであることを念頭に置き、理念の見直しをお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	優しい介護とはなにかを意識して、多忙を理由に職員の仕事を優先させることなく研修で学んだことを反映した支援を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には入っていないが、散歩の時に挨拶をして顔なじみになっている。地域の収穫祭には田んぼにテントを張り、収穫の喜びを共有したり、お祭りへ参加、子供みこしが来所する。ホーム便りを配布したり近隣の人々にもお茶のみに気軽に立ち寄れるような工夫もしていただきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員全員で会議をし全項目について取り組み、項目が多く文章化するのは大変だったが、記録することと気付きの大切さを再確認できた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで一度も運営推進会議は開催されず、自治体、地域住民、サービス事業者の三者で構成された会議を2ヶ月に1度以上開催することを義務づけられていることから早急に設置し、活用していただきたい。	○	運営推進会議を早急に開催し、今後のサービス向上に繋げるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からは助言などは今のところいただけていないが、管理者講習会などの情報はある。町との連携の意味を管理者も認識しホーム側からの積極的な働きかけにより、よりよい運営が出来るよう期待したい。町との連携を図り必要な指導、助言を得て今後のサービスに活かせるようお願いしたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを渡したり生活状況、介護記録を定期的に家族に報告している。現在金銭管理はしていないが、管理者の目標でもある入居者自身がお金を支払って買い物が出来るようになり、楽しみが増えるようお願いしたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情はこれまで無いが、管理者、職員に直接言いにくい場合には玄関に苦情受付箱を設置し対応している。国保連のポスターを掲示し、外部の相談窓口を明示しているが、尚、家族の意見や不満を聞きだす工夫をしていただきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある際は、引継ぎを文章にしたり口頭で伝え、入居者には不安を与えないように配慮している。退職した職員が時折尋ねてくるということだが、馴染みの人に会えるのは入居者にとっても刺激になり嬉しいことである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(防火管理者、調理師免許資格、虐待防止)に3回参加している。外部研修で学んだことを、内部研修でも取り入れて全員で共有している。働きながら調理師の資格を取得した職員がいてメニュー作成時に役立っていることは評価したい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町に5箇所のグループホームがあるが、特に交流はない。グループホーム連絡協議会には入会しているので、他のホームの管理者、職員との交流を通じ、このホームにおいて参考になることがあれば積極的に取り入れていただきたい。	○	地域包括支援センターが主になって行われているサービス担当者会議に参加し、他のグループホームの情報を得るなどの交流をしていただきたい。その上で気付きやサービス向上に繋げるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に十分に話し合い、ホーム内を見学したりホールで他の入居者と一緒にお茶を飲んだりして過ごす時間をもち、不安を少しでも解消するように配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	優しい言葉をかけたり、一緒にいるだけで安心感を得られるケアを心がけ、入居者からは柿の皮むきや裁縫などの生活の知恵を教えてもらうこともあり、共に支えあいながら生活をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話すことが不自由な方からはコミュニケーションが難しいが、じっくりと接して汲み取るようにしたり、大勢の前では話しにくいような場合は、夜勤時にじっくり向き合うように工夫されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人、家族の希望を聞いて職員全員で会議をし、介護支援専門員が3ヶ月に一度ケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、常に状態の変化がないか確認し変化が確認されればその都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	研修などで多機能性を活かした支援について学び、職員全員で共有していけるよう期待したい。特に今後の課題として、デイサービスやショートステイも必要によっては検討していただきたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問した日が検診の日で、医師の診察がおこなわれていた。毎月2回の定期往診と必要に応じてその都度対応している。ただし、歯科の協力医は無く、基準省令でも定めておくよう努めなければならないと謳われていることから早急に協力歯科医を見つけるようにしていただきたい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでは食欲が落ち点滴などの処置で仮入院し、そのまま本入院になったケースがほとんどである。	○	今のところ考えられないとしても、今後避けて通れない事である。これからの検討課題として、医師も参加して基本的な考え方の指針を成文化し、関係者で共有出来るよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方にあつた名前呼びかける配慮をしている。おむつ交換、着替えは居室で行い、個人情報についてもきちんと対処されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、それに捉われず入居者が主人公となって暮らせるよう柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホールで出来る食材の準備などを手伝ってもらっている。食事介助が必要な入居者には職員がサポートし、地元の民謡を聞きながら和やかに会食をしていた。職員は朝夕は食事を共している。昼についても職員も参加し楽しい食事会になるよう検討していただきたい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば夏場はシャワーを使用することもあるが、週2回の入浴を実施している。入浴を拒む方はいない。できるだけ毎日でも入りたい時に気持ちよく入れるよう検討をお願いしたい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	枝豆や野菜の皮むきなどの食事の準備、縫い物、読書等これまでの生活歴を活かし、得意分野での力を発揮してもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩にでかける。ホームのすぐ前の鳴瀬川の岸辺は地域の人々も早朝より犬の散歩をしたり、格好の散歩コースになっている。ドライブや、全員で遠方の日帰り温泉に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯の意味で夜間のみ玄関に施錠しているが、日中は見守りをしながら鍵をかけない対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急マニュアルはあるが防災マニュアルはない。防火管理者の研修で学んだことを職員全員で共有しているが、避難訓練は一度も実施していない。水、ご飯、缶詰などを備蓄している。	○	非常災害に関するマニュアル作成、具体的計画を立て地域の協力も得ながら、夜間の災害も想定した訓練を早急に変更できるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師の資格を持つ職員を中心に、入居者の希望を取り入れながら職員全員で献立を作成している。町の管理栄養士の助言を得て、栄養バランスや季節感に配慮した豊かなメニューを取り入れるよう期待したい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく、天井も高く開放感がある。ハード面での改善点が多々見受けられたが、出来ることから徐々に改善をしていただきたい。手を洗う場所が離れているトイレとセミパブリックスペースや玄関にまで流れるトイレの臭気。廊下の段差。ホールに近いトイレの壊れている鍵は修繕していただきたい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの家具が配置され、家族の写真などを飾っている。居室の隣室との境に取り付けてあるガラス戸とアコーディオンカーテンは、プライバシーに配慮の観点と危険をとまなう心配があるので壁面に改善するよう期待したい。		